激突するコンストラクター
進化するフォーミュラレース

FORMULA 4 CHAMPIONSHIP PADDOCK NEWS Vol.5

SPECIAL REPORT
F4ドライバー日本一決定戦

Text：はた☆なおゆき(Naoyuki Hata)
Photo：佐々木純也(Junya Sasaki)／石橋道尚(Michinao Ishibashi)
小笠原貴士(Takashi Ogasawara)

F4初表彰台で「日本一」獲得 新旧王者を振り切り 中山雅佳がもてぎを快走

コンストラクター日本一決定戦の興奮もまだ覚めやらぬ2週間後、ツインリンクもてぎを舞台にドライバー日本一決定戦が開催された。エントリーは19台。東日本シリーズとコンストラクター日本一決定戦を制した武平良介は同じマシンを西日本シリーズ王者の服部晃輔とシェアしているため出場していないが、思いもシェアして服部が臨んだのは言うまでもない。早い者は木曜から練習を開始し、本番を前にした土曜に最終チェックを行なうはずが、3セッションのうち後半2セッションがウエットとなってしまう。日曜は天候に恵まれたが、早朝の予選は路面凍結のため15分ディレイ。陽の当たるライン上だけがドライという状況の中、走り始めは慎重にならざるを得なかった。序盤のリーダーは伴貴広。トップのまま着実にタイムを詰めていくも、やがて金井亮忠が逆転。再逆転を狙った伴がS字でコースアウト。逆に金井は最終周に1分53秒521まで短縮した。これに服部と中山が続き、伴は4番手。5番手につけた西村和則がAクラスの最上位を獲得する。

8周で争われるセミファイナルでは、PP金井がスタートに出遅れる。普段用いるウエスト056にトラブルが生じ、MC090での参戦となったが「クラッチの感触やトラクションのかかりが違った」のが原因だ。代わってトップに立ったのは中山で、金井、服部、伴、ふたつポジションを上げた加藤正将が続く。だが、加藤は間もなくミッショントラブルで徐々に順位を落とす。最後まで中山と金井のバトルは続いたが、順位変動はなく、セミファイナルは中山が制覇。

15周で争われるファイナルでも、中山はスタートを決めて引き続き金井を封じ込める。もちろん金井も離れず続き、4周目の1コーナーで勝負に出た。しかし、これをかろうじてかわした中山はレース折り返しから、次第に差を広げていくようになる。一方、その後も激しく続いていたのは伴と服部の3番手争いだったが、11周目の90度コーナーで伴がコースアウトして決着がついたかに思われた。しかし、ひと息つく暇もなく服部に迫ってきたのは加藤。加藤は10台抜きを果たしてきた。再び緊張感がみなぎるも、それまでの激しい追い上げで加藤には余力が残されておらず、辛くも服部が振り切ることに成功。しかし、「いいクルマを準備してもらったのに……」と、3位獲得にもレース後の服部に笑顔がなかった。

今季初表彰台を優勝で締めくくった中山は「練習も中古のタイヤでしかできなかったんですが、だからこそ最初の3〜4周を我慢して周りのタイヤがタレてくれれば、自分はさらにいけるなという自信はありました」と思いどおりの展開にニッコリ。スポンサーでもある日立オートモティブシステムズの同僚100人近くが見守る中、期待に応える結果を得た。Aクラス優勝はもちろん加藤で、2位は西村が獲得。なお、今回惜しくもファイナルをリタイアで終えた山口大陸がF4協会のグランドチャンピオンに輝いた。

1 ファイナルの序盤に先行された#70 伴の攻略に手を焼いた#14 服部。結局11周目の#70 伴のコースオフまで時間を要した。2 予選トップを奪ったのは#72 金井。3 セミファイナルから3番手争いに加わっていた#82 栗原は、ファイナルでまさかのエンジントラブルでストップ。

服部が西チャンピオンを決める

ポールポジションを伴貴広が獲得したものの、フォーメーションラップでドライブシャフトが破損し、スタートできず……。予選4番手のイム・チェウォンがトップに立つが、3周目の1コーナーで服部晃輔が逆転に成功。そのまま逃げ切って、2勝目を挙げて西日本シリーズのチャンピオンを獲得した。

国土交通省後援F4西日本シリーズ第6戦リザルト

Pos	No	Driver	Machine	Type	Time
1	14	服部晃輔	OGUSU ZAP F108	F-108	20'50"139
2	7	山口大陸	TAIROKU エクシード 108	F-108	+1"872
3	19	IM CHE WON	KIM'S RACING 10W	R&D10W	+6"690
4	3	片寄勝政	ミストKKAセキグチSR	KK-A	+8"070
5	99	早坂公希	エクシズ☆CMS☆芳豆樹006	W006	+8"495
6	12	佐藤　敦	佐藤製作所・MYST・TOMEI	KK-ZS	+11"416
7	35	高橋忠克	高宮商事ミストKK-ZS	KK-ZS	+22"381
8	34	三浦　勝	CMS090	MC-090	+1'08"685
9	4	小林佐知男	C-FACTORY	W006	+1'11"688
10	29	細川義成	NY☆ES☆TODA	W096	+1'12"548
以上 規定周回数完走:					
	70	伴　貴広	TeamNaoki☆ルーフ☆EXEDY	MC-090	D.N.S.

新車だけではないマシン開発 Aクラス車両の試行錯誤にも注目

近頃F4ではハイブリッド化が目立っている。といってもプリウスやCR-Zなどのモーターアシストのそれではなく、他のマシンのパーツを組み合わせるという手法のこと。最も目立つのは、山口大陸のB-MAX RK-01に、ZAP F108のカウルを装着したもの。「回り込むコーナーが多いサーキットでは、旋回性能の高いRK-01の方がマッチするんですが、空力性能はF108の方が優れていて、最高速も伸びるように感じるので、合わせて使っています」と山口。これも共通するUOVAのカーボンモノコックを使用するから可能だというわけである。

また、Aクラスことアルミモノコックのマシンにも工夫が目立つようになり、西日本シリーズ第4戦まで川村和希が使用していたウエスト096は、衝突安全性能アップを考慮してRD10Wのサイドポンツーンを装着。その他にも細かい部分だが、フロントウィングの翌端板を大型化するのは、昨今のトレンドにもなりつつある。タイヤ以外、シャシーとエンジンの両方が選択自由で、お好みのセッティングが可能なF4だけに、こういった創意工夫は大いに歓迎されるところである。違いを感じて高めていったセッティング能力は、きっとドライビングの幅も広げ、将来役立つ能力となるはずだ。

F4ドライバー日本一決定戦リザルト

Pos	No	Driver	Machine	Type	Lap	Time
1	3	中山雅佳	ZAP HITACHI F108	ZAP F108	15	28'35"169
2	72	金井亮忠	チームNATS・正義 056	MC090	15	+2"514
3	14	服部晃輔	OGUSU ZAP F108	ZAP F108	15	+20"221
4	51	加藤正将	LEON RACING 006	WEST006	15	+22"513
5	1	DRAGON	B-MAX・RK01・TODA	RK01	15	+22"943
6	99	西村和則	CMSエクシズSTARCH006	WEST 006	15	+26"842
7	36	大岩政裕	ポイントワン高宮商事M2ミストKKZS	MYST KK-ZS	15	+40"102
8	8	山田　翔	TKroomスーパーウインズASアート	ZAP F108	15	+41"826
9	6	初田大樹	SuperWind's HR.T 056	WEST 056	15	+47"340
10	34	三浦　勝	CMS090	MC090 UOVA-4	15	+54"817
11	4	佐々木祐一	Sendai☆DayDream	WEST 006	15	+1'17"717
12	5	渡邉英雄	MARS-RF.976TODA	WEST 976	13	−2Laps
13	13	長　優子	B-MAX・RK01・TODA	RK01	12	−3Laps
14	70	伴　貴広	TeamNaoki☆ルーフ☆EXEDY	MC090	10	−5Laps
以上規定周回数完走						
	73	渡辺義人	チームNATS・エクシズ 006	WEST 006	9	−6Laps
	82	栗原正之	テクノクラフト はやぶさ F4	R&D UOVA4-010	6	−9Laps
	24	中島佑弥	ガレージ茶畑 RK01	RK01	4	−11Laps
	12	金子昌広	佐藤製作所ミストKK-ZS東名Rn萬店	KK-ZS	1	−14Laps
	7	山口大陸	TAIROKU F108	ZAP F108		D.N.S.

1 2 セミファイナル中のミッショントラブルで順位を落としていた#51 加藤がファイナルで息を吹き返して4位、Aクラス表彰のトップを奪った。3 大応援団が駆けつける中、中山が頂点に輝いた。

DUNLOP ── F4東西シリーズはダンロップタイヤのワンメイクレースです

F4協会HP　www.formula-racing.org